エコロジー教育センター公園を日本の GNC 組織と共同で行った整備事業に関してと
2014 年に実施した活動報告

2014 年 9 月 2 日

日本の GNC 組織はモンゴルでの公園新設事業において、エコロジー教育センターと共同でエコロジー公園を新設しました。この事業の準備作業は 2002 年より開始され、2005 年 9 月に開園式を行い、式には当時の日本大使やマスコミの方たちが参加しました。この事業において、砂利道をつくる、道を保護する柱を設置する、ロープを引く、井戸を掘る、配水管を設置する、橋、椅子、日よけ、池を造るなどの整備事業を行った他、公園の植物の種類を増加させて行くという基本目的により、新たに木、潅木を植え、管理し成育させる活動を継続して行って来ました。毎年改善を行い、植物を追加して植え、整備するという、この活動を 10 年という期間継続して行い、2014 年現在、当公園には主に、にれ、みざくら、ひめしゃくなげ、シベリアりんご、テヒーンシェーグ、ボルガス、はりもみ、西洋杉、銀はりもみ、松、オリアス、あんず、ボイルス、シネス、トシロイ、ブラックベリー、チャッツァルガン、アプリコット、フランボワーズ、アクチなどの針葉樹や広葉樹、果樹など 32 種類、3,000 本以上の木、潅木を植え、成育させて来ました。当公園近隣住民の方たちが好んで訪れ、子供たちがきれいな空気の中を散歩し、自然の素晴らしさを感じ、自由な時間を上手に過ごす、市の数少ない緑の公園の 1 つとなりました。

EBT の元校長ﾊﾞｯｻﾞﾙﾄﾞﾙｼﾞ氏、GNC 組織代表の宮木一平氏らと公園に初のオリヤスを植えた際

表 1.　2004 年～2014 年の間に日本の GNC 組織よりいただいた公園（整備事業）への資金協力

No.	年	金額	説明
1	2004	1185000	緑化、植物を植える、橋、作業代
2	2005	3695000	砂利道、柱、竹、植物を植える、木製の椅子、扉、場所を知らせる看板、作業代
3	2006	4866800	植物を植える、日よけ、鉄のゴミ箱、木、潅木のネームプレート、日よけの下の椅子作成
4	2007	5124800	池、井戸のポンプ、公園の道具類、植物を植える、柱を塗る、椅子のニス塗り
5	2009	4000000	日よけの修理、緑の柱を塗る、ロープの取替え
6	2010	4673000	井戸堀り資金に使用
7	2011	1524100	自然の柱、契約作業員代
8	2012	-	寄付をいただかなかった
9	2013	2434000	植物の名札つけ、鉄製のゴミ箱、自然の柱、道具、植林作業、契約作業員代
10	2014	3749800	とても貴重な植物を植える、「自然マッサージ」、「幅跳び場に 5 つの動物の姿を付けた表示」の駅設置の際、契約作業員代
合計額		**29405250**	

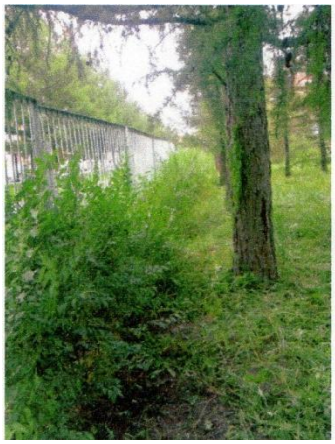
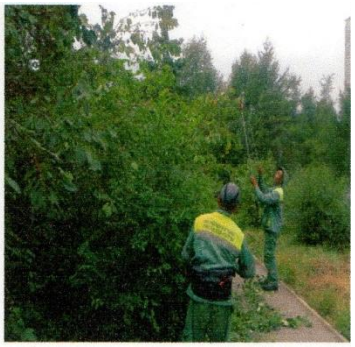
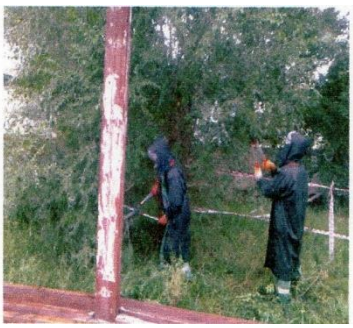
上記の期間に毎年公園にて行う作業計画を作成し、それに沿って資金協力をいただき作業を行って来ました。また、公園の敷地の清掃、管理作業を行う契約作業員たちを雇って作業を行って来ました。

私たちは 2014 年に GNC 組織との共同事業開始 10 周年を迎え、以下の活動実施を計画し、資金協力をいただきました。これには：

1.　植林：公園にモンゴル国内の木々植物を収集する目的で早急に必要となる西洋杉、シベリアもみ、ザグ、桐、ジグドなど 25 種類の木、外の柵に沿って自然の柵を設置する目的で以前に植えた柱に続けて 375 本のニレの木を新たに植えることを、それぞれ計画しました。この作業を行うに当たって、センターの専門職員が勤務日に市の近郊にあるホリモクホイドに赴き、小さな西洋杉 3 本を持って来て、公園の中心に植えました。計画に沿って桐の木を植えるはずでしたが植林用として育てた桐の木が見つからなかったため、その代わりにアクチの木 5 本を敷地の中心に植えました。その他、ザグ、西洋杉、シベリアもみなどの木においては苗木で植え、生育させたものが、まだほんの一歳で、春に（外に）植えるにはまだ弱かったため、秋に植えるように延期しました。作業が完了したものを写真に収め記録しました。

管理写真

写真	説明
	公園敷地の大体の写真、今年の夏は、雨が多く良い年でありました。
	春の中頃から水遣りや園内の清掃、木々の管理作業等を開始しました。

	道路の手前に成育している 3 歳のニレ科の木をウランバートル市の整備員を連れて来て剪定を行ってもらいました。
	公園前方の敷地に成育しているみざくらの形を整えています。
	入り口付近の敷地のシャルホアイス、テヒーンシェーグ、ボイルスなども同様に形を整えました。
	大きく成長したニレの木の枝を剪定し、ローズヒップの形を整えました。

植林作業写真

写真	説明
	後ろの方のジグドの植えられてある場所に追加で 5 本のジグドを植えました。成育状況は良好です。
	自然の柵を植える場所に畝を掘り、375 本のニレの木を植えました。
	ホリモグ森より持ってきた西洋杉の成育は良好です。世話する際にゴミニ液肥で 14 日に 1 度水遣りし、土を起こして空気を入れてあげました。

2. **裸足で通る道：**自然を感じさせる、健康、運動を促進する、疲労回復、湿気のある環境を整える目的で様々な自然の材料を利用し、合計 25 メートルの長さの裸足で通る道をつくり、完成させました。自然マッサージ駅の大まかな計画図面を専門職員チーフの R.スンジドマー氏が作成しました。作業工程の一つ一つを記録写真に収めました。今年の企画事業に当センター員らは専門職員チーフをはじめとして、皆で参加して作業を行い、意見などを取り入れながら共同作業を行いました。

裸足の道の 駅づくり作業工程写真

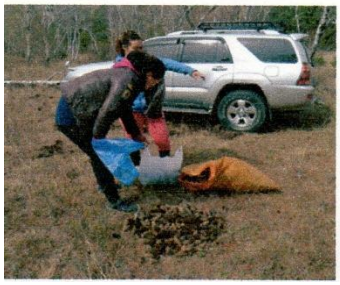
写真	説明
	市近郊に位置するホリモグ森に出かけ、松ぼっくりを拾いました。松ぼっくりを拾う際には、新しくて、乾いてしわがよったり、腐った悪いものでないものを（選んで）拾いました。
	裸足で通る道、あるいは、自然マッサージ駅を守るため、旧気象台のあった柵を利用することにしました。柵内で成長した枯れ草、使用しなくなった鉄、旧気象台などを掃除し、柵を塗るためのペンキを、当センターの備品を利用して塗りました。
	ナラントール市場より購入したシャガイを洗ってきれいにしています。また、なめした羊の皮をつないで、縫っているところです。私たちの仕事場の一室が小さな工場となりました。
	洗ってきれいにしたシャガイに糸を通して繋ぐため、ドリルで穴を開け、繋いでいるところです。

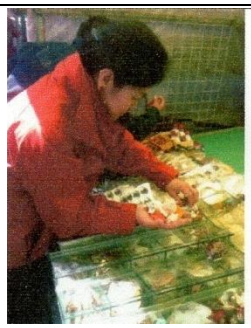
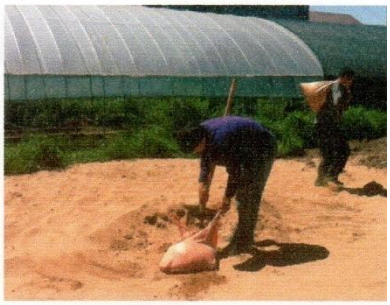
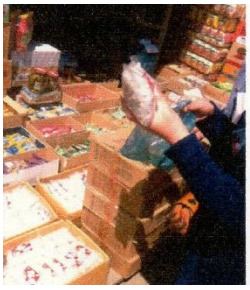
写真	説明
	どんなものでも揃うナラントール市場に来て、貝がらを探しています。ここにはいろいろな貝がありましたが高価であり、踏むのに適さないものでした。
	自然の石を選ぶために沢山の場所を訪れ、調べました。最終的にはふさわしい自然の石を見つけました。
	皆でナラントール市場へ行き、駅に使用する材料を探し続けています。
	岩塩をこんなに沢山一度に見つけるなんて！めったにないものですよ。
	自然マッサージ駅の柵の中の土を掘り起こし、平らにし、芝生を植える準備をしています。とても土が固かったのですが、均すことが出来ました。

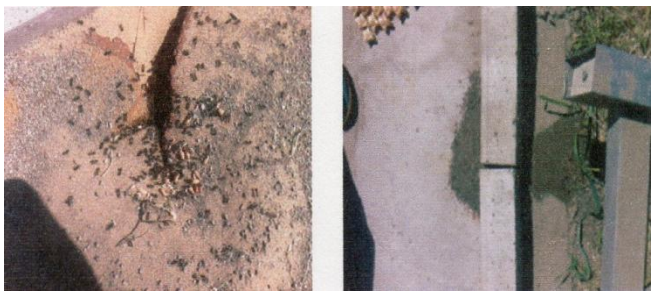
写真	説明
	平らな石を洗ってきれいにし、敷いています。
	自然の平らな石をセメントでくっつけました。セメントの工程で石が砂で汚れてしまったため、洗って磨き、きれいにしました。そして、ニスを塗り色の鮮やかさを出しました。
	木材市場より丸太を購入し、エーウェン（月餅のような丸い形）の形に切り、丁度良く組み合わせながら敷きました。
	つなぎ合わせたシャガイ、岩塩を敷いています。
	蟻たちが私たちを突然訪問し、行った作業の少なからず迷惑となりました。

写真	説明
	自然マッサージ駅の柵を当初計画した際は、木で作製するはずでしたが、木は耐久年数が短く、壊れやすくなるため、コンクリート製のふさわしいものを購入して保護柵を作製することになりました。
	使用材料を敷く部分全てにセメントを敷きました。このことで寿命が長くなり、強く頑丈なものになるのです。
	山から拾って来た松ぼっくりをマッサージの一番最後の場所のところに敷きつめている様子。
	道に使用した材料を雨、雪、風などの自然現象や人の動作から保護する目的で上部に仕切りを付けました。

	植えた芝生や花壇の花はとても良く成長しています。

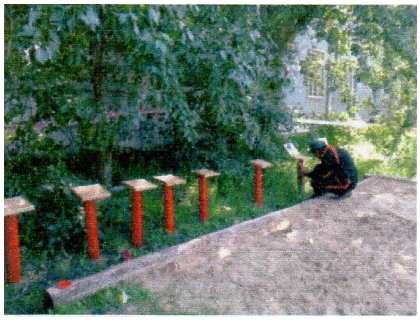
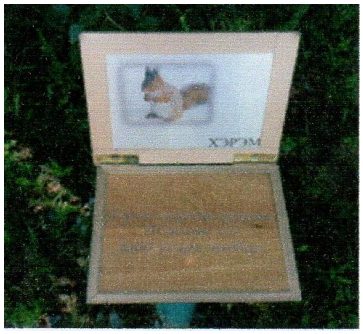
<u>オープンの準備が整った裸足で通る道の駅</u>

写真	説明
	はじめの一歩は木のエーウェンの上を歩きます。棘がささるのではないかと恐れることはありません、勇気を出して歩いて見て下さい。
	二歩目：平らな石の上を歩きます。白い石はとても不思議な違った感覚です。
	三歩目：砂の上を歩くのはどんな感じがすると思いますか。 四歩目：羊の毛で作ったフェルトの上。

	五歩目：チェス盤のように繋いで運んだシャガイの上で。
	六歩目：なめした柔らかい羊の皮の上で。
	七歩目：私たちは岩塩の恩恵を知るでしょう。
	八歩目：自然の素晴らしい石の上をどうやって歩くでしょうか。
	九歩目：松ぼっくりの上を歩いてみたことがありますか。どんな感覚が生まれるでしょう。

3. **幅跳び場：**子供たちが幅跳びを行って、どんな動物と同じくらいの距離を跳んだのか、見て分からせます。このために幅跳び場の横に動物の姿をかたどった表示を設置しました。これを通してどんな動物が最も長く、また最も短い距離を跳ぶのかや、人間はこれらのどの部分に入るのかなどを子供たちが学習します。

幅跳び場の写真

写真	説明
	幅跳び場の長さは 5 メートル、幅は 3 メートルで計画した。幅跳び場の始めのところに板を設置しました。
	表示板の高さは 1 メートル、動物の姿をかたどって切り、地面に入る部分には腐食予防のためにセメントをつけて設置しました。
	動物の姿のついた表示板を木材で作製し、蝶つがいをつけ、開閉式にしました。雨や日差し、風にさらされても、乾燥して色褪せない材料を選んで作製しました。
	これは何なのでしょう？やっとのことで私が作ったものをこんなふうにするなんて。どうやって守りましょうか？

報告書作成者：　　専門家　E.ナサンバヤル